

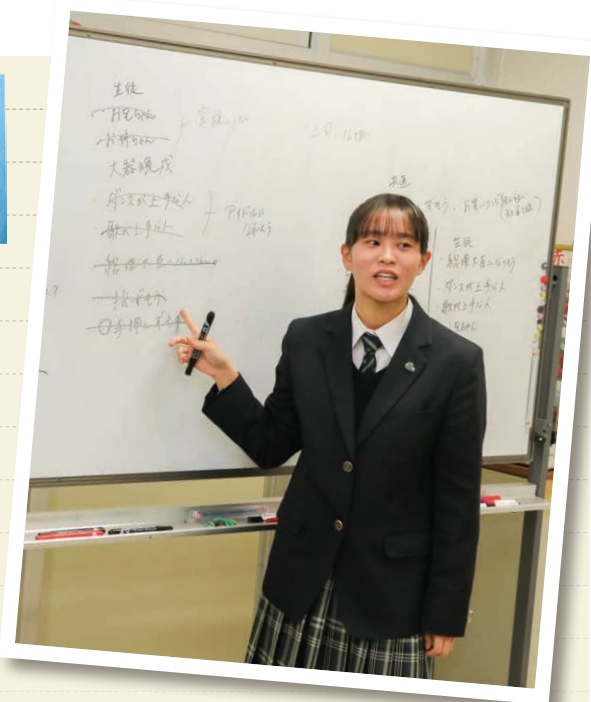
魅力ある高校生にインタビュー

明日へ ジャンプ。

No.194

生徒全員が参加できる組織作りで
もっと魅力的な学校へ

四ツ葉学園中等教育学校 5年 丹治 心 さん



「入学前の学校説明会で参加者に積極的に声を掛ける生徒会の先輩たちに憧れて、生徒会に入りたいと思いました」と生徒会に所属したきっかけを話してくれた丹治さんは、学校をさらに魅力的にしたいという思いで、1年生から生徒会の活動を続けてきました。そんな丹治さんには、数々の活動の中でも印象に残っていることがあるといいます。

「女子生徒用のスラックス導入を実現したことが印象に残っています。一人一人が持つ個性をより大切にするためにスラックスの導入を提案しましたが、はじめは学校との話し合いが思うように進みませんでした。そこで、寒さなどの分かりやすい根拠を提示することで学校の理解が得られ、実現することができました」

生徒一人一人のことを思い活動を続けてきた丹治さんは、5年生から生徒会長を務めています。

「4年間生徒会の運営に携わってきた経験を生かし、生徒の豊かな個性を生かすことができ、さらにそれを発信できる体系を作りたいという思いで立候補しました」



プロフィール

たんじ・こころ

小学生の頃から地元合唱団に所属。今年参加した学校主催の海外グローバルリーダー研修でアメリカのマイナーリーグの球場で歌唱力を発揮した。今後は法学部に進学し、将来は発展途上国への援助などに携わりたいと話す。

明確な目標を持ち生徒会長を務める丹治さんには、心掛けていることがあるそうです。「これまでの生徒会は、自分たちの意思を通すことだけを考えていたように思います。その反省から、先生から現状に至る経緯や理由を聞いた上で、自分たちの考えを実現できるように心掛けています」

経験を基に円滑な生徒会運営を図る丹治さん。最後に、目指す生徒会像を聞きました。「まだ生徒と生徒会との関わりが薄いと感じています。生徒会は本来、生徒全員が所属しているものです。今後はSNSなども取り入れ、生徒一人一人が参加しやすい生徒会にしていきたいです」